

1 学校教育目標

- 自ら考え、自ら学ぶ人 ○ 感性あふれる、心豊かな人 ○ 心身を鍛え、たくましく生きる人

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

- | | | |
|---------|------------------------------|------------------------------------|
| ○学校像 | ○ 生徒一人一人の可能性を伸ばせる学校 | ○ 地域・保護者・生徒から信頼される学校 |
| ○児童・生徒像 | ○ 勤勉な生徒 ○ ルールを守り礼儀正しい生徒 | ○ 他者を思いやる人 ○ 夢を育む人 |
| ○教師像 | ○ 教職としての専門性を高める教師 | ○ 自他の人間性を高める教師 ○ 組織で教育を実践する教師 |

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状>

コロナウィルス感染症対策を講じながらの教育活動3年目を迎えた。「休校」や「中止」の1年目、「延期」や「縮小」の2年目に比べると我慢や不便を重ねる中だが、「できることをできる限り」「学びを止めない」を合言葉に教育活動をほぼすべて実施することができた。そうした状況の中、生徒は何事も明るく前向きに捉え、自分たちの力で授業や特別活動、部活動等を充実させていた。授業ではノーチャイムでの始業、終業、運動の祭典「桜魂祭」では応援団や実行委員を中心に、文化の祭典「桜友会」では合唱コンクール、舞台発表、作品展示と各方面に、宿泊行事や学年行事ではグループ活動を中心に主体的に取り組み成果を挙げている。その原動力は「さく中魂」に象徴される千寿桜堤中学校としての伝統とその改善による自信と誇り、そして、本校独自の品位であり、その力が保護者・地域の温かい理解と協力、支援とも合わせて学校の充実につながっている。

また、今年度はSDGsの目標でもある「誰一人取り残さない持続可能な確かな学力の定着と豊かな感性の育成」をかかげ、足立区情報教育推進拠点校としてICT機器を活用した教育活動を推進し授業や補充学習、家庭学習における個別最適な学びや協働的な学びを実践するとともに、学習活動や学校生活に困り感をもつ生徒には教育相談的な活動を多く取り入れ、その課題を学年、学校で共有し、丁寧で寄り添った生徒指導を心がけてきた。

<前年度の成果と課題>

成果

- ・感染対策を徹底しながらすべての教育活動を実施でき、それらの活動に対する保護者の皆様、地域の皆様の理解と協力、支援を得ることができた。
- ・情報教育推進拠点校として、ICT教育を推進し生徒たちの学習意欲や学習スキルの向上、教員の授業力の向上を図ることができた。
- ・「未来を照らすプロジェクト」「産官連携事業」などの特色ある活動を通して、生徒の課題解決能力や豊かな感性を伸ばすことができた。
- ・教育相談的な取組をとおして、学習や生活に困り感のある生徒たちの声を聴き、課題を共有し、学校全体で寄り添った指導を展開することができた。

課題

- ・学校の課題：学校経営方針の具現化を図るために教職員の組織的実行力を高め、校内の教育活動のみならず、小中連携事業やPTA活動、地域活動との連携、充実を図り、保護者、地域からの信頼度をさらに向上させることが課題。
- ・生徒の課題：自己指導力や課題解決能力を向上させ、確かな学力を身に付けたり豊かな感性をさらに磨いたりしていくことが課題。
- ・教員の課題：個々の能力や実践、人間性を学校としての学習指導力、生徒指導力、進路指導力などの組織的な教育力に高めることが課題。
- ・保護者・地域の課題：PTAのサポーター制度を充実させ、教育活動への参加機会を増やし、三位一体となったより良い学校づくりが課題。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン（自ら考え、自ら学ぶ人）	○	○	○	○	○
2	全教育活動を通じた多様な感性と豊かな心の育成（感性あふれる、心豊かな人）		○	○		
3	自己指導能力の向上による課題解決能力の育成（心身を鍛え、たくましく生きる人）		○	○		

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン									
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)			コメント・課題		達成度 ◎○△●			
・・学力向上アクションプランの実践を通して、各種学力調査などに対応できる確かな学力を定着させる		令和5年度、区学力調査通過率各学年・各教科令和4年度以上	通過率(数字は学年/率単位%) 国語 1 84.7 2 86.8 3 74.7 数学 1 91.2 2 68.9 3 76.0 英語 1 81.8 2 61.8 3 82.7 平均正答率 国語 1 79.8 2 80.7 3 78.1 数学 1 77.1 2 50.9 3 54.7 英語 1 76.3 2 63.0 3 74.3 年度末到達度調査 国語 1 77.9 2 76.7 数学 1 49.1 2 47.8 英語 1 61.8 2 60.5			R5 通過率 国語 82.0 数学 78.3 英語 75.2 R4 通過率 国語 76.7 数学 78.2 英語 73.8 (R4 平均 76.2⇒R5 平均 78.5) 年度末の到達度調査では区平均は上回っているものの、国語の正答率は良好であるが1年・2年の数学、2年の英語の正答率が低く、確かな学力定着に至っていない生徒への授業や補充学習での学力の保障が課題である。		◎			
B 目標実現に向けた取組み											
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●		

1 新規	個別最適な学びと協働的な学びを取り入れた授業改善	全学年 全教科	通年 適宜	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器を積極的に活用し指導の個別化や学習の個性化を図る。 グループ学習や探究学習を授業に取り入れ、生徒が主体的に学習に取り組む意欲や態度を育てる。 	生徒評価アンケート 教員自己評価	関連項目 100% 100%	生徒 83.8% 教員 87.5%	情報教育推進拠点校としてICT機器を積極的に活用できた。個別最適化の研究を進め、生徒に還元することが課題。	○
2 継続	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	教員 全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> 単元や授業の目標や振り返りの質を向上させ、確かな学力のより一層の定着と主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。 	生徒評価アンケート 教員自己評価	関連項目 100% 100%	生徒 88.0% 教員 92.0%	教員の意識は高まり、生徒からの評価も高く、授業改善を図ることができた。教員、生徒ともに一層の充実が課題。	◎
2 継続	学習コンテストや単元テストによる学力定着と学力補充	生徒 5教科	通年 5教科 適宜	<ul style="list-style-type: none"> 適宜、学習コンテストや単元テストを行い、生徒の学力の定着度を測り、つまづきを把握する。 補充学習をとおして学力の定着を図る。 	学習コンテスト、 単元テスト、 到達度調査	生徒全員が合格点クリア	生徒 85.1% 教員 82.8%	学習コンテスト、単元テスト共に適宜実施し、学力定着を図ることができた。不合格者をゼロにすることが課題。	○
2 継続	イングリッシュデー、校外学習を活用した英語力の向上	全学年 英語科 第2学年 英語科	毎週1回 給食時	<ul style="list-style-type: none"> 毎週イングリッシュデーの昼の放送を英語で行う。 英語科教師は、イングリッシュデーは英語で会話し、他の教員や生徒は1回以上、英語を使う。 2年生ではTGGに参加し1日英語を活用した体験学習を行う。 	生徒意識調査等 英語への関心	関連項目 100%	生徒 80.1% 教員 95.7%	イングリッシュフライデー、校外学習(TGG)とともに予定通り実施、生徒の意識や関心をより高めることが課題。	○
2 継続	家庭学習による主体的に学習に取り組む態度の育成	全教科	毎日	<ul style="list-style-type: none"> AIドリル等を活用して生徒が自ら課題を設定し家庭学習に取り組む。 主体的で粘り強く取り組める家庭学習の習慣を身に付ける。 	家庭学習ノート 生徒意識調査等	家庭学習関連項目 100%	生徒77.5% 教員83.4%	教員は適切な課題を提示し、生徒たちは家庭学習によく取り組んでいる。指導の個別化、学習の個性化の一層の充実が課題。	○

重点的な取組事項－２		全教育活動を通じた多様な感性と豊かな心の育成（感性あふれる、心豊かな人）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
教科や特別活動を通して多様な感性を磨き、夢や希望をもち、優しさや寛容、思いやりの心などを豊かにする		生徒評価肯定回答 100% 保護者評価肯定回答 100% 教員評価肯定回答 100%	生徒 85.1% 保護者 72.5% （自尊感情・自己肯定感項目） 教員 91.7%	1, 2年生は特色あるキャリア教育活動を実践することができた。自己実現に向けて経験を生かすことが課題。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
各教科で身に付けた知識や技能を活用した多様な感性や豊かな心の育成	生徒アンケート 関連項目 肯定回答 100% 教員評価関連項目 肯定回答 100%	・各教科で身に付けた知識や技能を活用した作品の制作や発表の場を個人や集団で設け、多様な感性や豊かな心を育てる。	生徒（関連項目平均）86.1% 保護者（関連項目平均）83.5% 教員 83.3%	様々な教育活動で学んだことを活用し、感性を磨く活動を積み重ねる。今後も継続していくことが課題。	○
道徳教育を通じたより良い生き方を考える豊かな人間性の育成	生徒アンケート 関連項目 肯定回答 100% 教員評価関連項目 肯定回答 100%	・「考え、議論する」道徳の授業を推進する。 ・すべての教育活動をとおして、道徳的な態度やよりよい生き方を考える。	生徒 88.5% 保護者 関連項目なし 教員 91.7%	発問や振り返りを工夫することでよりよい生き方を考える道徳教育を実践できた。実施回数を増やし、さらなる育成が課題。	◎
特別活動による自己有用感の育成と社会貢献意識の向上、他者への思いやりの心の育成	生徒アンケート 関連項目 肯定回答 100% 教員評価関連項目 肯定回答 100%	・生徒会活動や学級活動、行事に常に目標を掲げ達成する。 ・社会貢献を意識した生徒会活動や学級活動、行事などを計画し、仲間と協力して実践する。	生徒（社会貢献）86.6% 保護者 関連項目なし 教員 91.7%	生徒会活動、班活動をとおして自己有用感や思いやりの心を育てることができた。安心できる学級作りのさらなる推進が課題。	○
授業や特別活動等をとおした帰属意識や礼儀、マナー、他者を思いやる心の育成	生徒アンケート 関連項目 肯定回答 100% 教員評価関連項目 肯定回答 100%	授業や特別活動、部活動などをとおして、礼儀やマナーを身に付け、帰属意識を高めるとともに仲間と協力し、他者を思いやる心を育てる	生徒（あいさつ、礼儀）88.5% 保護者（ルール、マナー）82.0% 教員 91.7%	生徒会、部活動を中心にあいさつを励行することができた。全校生徒が自然にあいさつができるようになることが課題。	○

重点的な取組事項－3		自己指導能力の向上による課題解決能力の育成（心身を鍛え、たくましく生きる人）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
様々な教育活動において自らの目標や課題を明確にし、自己指導能力や自律心を高め、規範意識と課題を解決する能力を育成する。		生徒評価肯定回答100% 保護者評価肯定回答100% 教員評価肯定回答100%	生徒 85.1% 保護者 82.0% 教員 91.7%	全ての教育活動に目標をもち、自分や自分たちの課題を解決していた。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
教科や特別活動における目標達成や課題解決を通じた自己指導能力の育成	生徒アンケート 関連項目肯定回答100% 教員評価関連項目 肯定回答100%	・すべての教育活動に目標や課題をもつ。 ・自分自身や仲間と協働しながら目標達成や課題解決を図り、自己指導能力を高める。	生徒（関連項目平均）85.1% 教員 83.3%	委員会活動、係活動、行事、地域との連携事業をとおして社会に貢献しようとする態度を育てることができた。継続することが課題	○
自ら考えて行動する生活による自律心や課題解決能力の育成	生徒アンケート 関連項目肯定回答100% 教員評価関連項目 肯定回答100%	・学校生活に自らの課題をもち、その解決策を自らまたは仲間と協働的に考え解決する。 ・何事にも自律心をもち主体的に解決する。	生徒 85.0% 教員 91.7%	常に個人や集団の目標をもち、特別活動に取り組み、主体的な課題解決能力を高めた。継続、さらなる向上が課題。	○
行事や生徒会活動、学級活動を通じた自己指導能力に基づいた課題解決能力の育成	生徒アンケート 関連項目肯定回答100% 教員評価関連項目 肯定回答100%	・行事や生徒会活動、学級活動のルールなどを自分たちで決めて守る。 ・行事や生徒会活動、学級活動の課題を自分たちで解決する。	生徒 86.7% 教員 91.7%	生徒会活動、班活動をとおして自己有用感を高め、主体的に課題を解決する姿がみられた。自己指導力に基づいた帰属意識の向上が課題。	○
学習活動や学校生活において自ら厳しさを求めた取組による自己指導能力、課題解決能力の育成	生徒アンケート 関連項目 肯定回答100% 教員評価関連項目 肯定回答100%	・目標を高く設定し、厳しさや難しさを感じながらも意欲的に取り組む。 ・困難を自分や仲間とともに乗り越える。	生徒 83.3% 教員 91.7%	常に個人や集団の目標をもち、特別活動で主体的な課題解決能力を高めた。継続、さらなる向上が課題。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 区学力調査についての課題と対策

【成果】どの学年もすべての教科で正答率・通過率ともに区平均・全国平均を上回っており、学習の定着に向けた取り組みの成果が表れている。学習意識において、昨年度と比べると「学校での授業はわかる」の項目は「+2.4」で授業改善の成果が見られるが、「勉強が好きだ」の項目は「-3.9」で、勉強に対して前向きに取り組むことができるようにすることが課題である。

【課題】国語は「言語・情報・言語文化」「書くこと(記述)」に定着の差が見られる。語彙・文法・漢字などの知識・技能を定着させ、記述の苦手意識を解消することが課題である。数学は「思考・判断・表現」の単元においては、未定着の生徒が多い。また、単元ごとに一部未定着の生徒がいる。個々の生徒に応じて、定着を図っていくことが課題である。英語は「読むこと」「書くこと」において、昨年度から向上が見られ、授業改善の成果が見られた。ただ、単元ごとに生徒による定着率の差が大きい。個々の生徒に応じて、定着を図っていくことが課題である。補充学習などで学力の定着を図ることが課題である。

【対策】国語の授業では、考えていることをほかの人にわかりやすく表現する場(グループ発表など)を多く設定し、活用力の定着を図る、数学では習熟度別少人数学級指導(2学級3展開)を実施することで未定着の生徒をつくらないこと、英語ではスプリングコンテストや単元ごとの小テストを実施することで学力の定着を図り、ALTとの会話を重視した授業や英会話を重視したグループ学習などで英語になじませる。

- ・補習学習では、AIDリルを活用し、基礎学力の定着を図るとともに各教科のコンテストや単元ごとの小テストを実施し、定着を図る。
- ・個別指導では、授業中の形成的評価の活用や習熟度に合わせた課題への取組など、指導の個別化を通して確かな学力の定着を図る。

イ 全体的な今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

＜成果＞学校経営方針に「誰一人取り残さない確かな学力の定着と豊かな人間性の育成」を掲げ、学力向上アクションプランをはじめ具体的な取組を実践した。「誰一人取り残さない」を掲げ、「一人一人の可能性を広げ伸ばす」持続可能で多様性と包摂性のある中学校教育の実現を目指した。

生徒たちは日本一の授業を目指して授業に真剣に取り組む、補充学習や家庭学習を充実させ、学校生活や行事では「一生懸命の精神」と自律心を持ち、自分たちの力で様々な活動を充実させていた。目標である「確かな学力の定着、自律心に基づいた規範意識と課題解決能力、豊かな人間性」の育成を生徒たちの主体的な取組により概ね図ることができた。

＜課題及び解決の方向性＞「誰一人取り残さない」というSDGsの目標を掲げている。生徒全員が充実した学校生活を送り、保護者全員から「本校に入学させて良かった」といってもらえるようにすることが課題である。生徒たちが抱える悩みや困り感を早期発見、早期解決しながら生徒全員が本校での学校生活を楽しく思い、意欲的に登校できるようにし、保護者の皆様、地域の皆様からの信頼も高めていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

生徒たちは伝統の「さく中魂」と自分たちの「さく中魂」を発揮して、自信と誇り、そして品位をもって学校生活を送っています。意欲的に取り組む授業態度や定期考査に臨む姿勢、特別活動や部活動などに仲間と皆で協力しながら全力で取り組む姿は大変立派で千寿桜堤中学校をより良い学校へと成長させてくれたと確信しております。

また、お忙しい中、学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。学校教育は80%だから合格、90%だから良いというものではないことは重々理解しております。真摯に受け止め、検討を重ね、全員にとってより良い学校となりますよう改善に努めてまいります。

そうした学校の状況をご理解いただき、ご協力賜りましたことに心より感謝申し上げます。来年度も生徒たちの活動や元気な姿を保護者の皆様、地域の皆様に数多くご覧いただき、安心していただくとともに、本校の教育活動に直接関わり、その場でご意見を頂戴するなど学校、生徒、保護者一体となってより良い学校を築いていきたいと考えております。

また、地域の行事等にも生徒たちを積極的に参加させ、学校とは違った経験をとおして成長してほしいと考えております。今後とも変わらぬご理解、ご協力、ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

本校の教育活動全般については、授業や特別活動（学級活動、生徒会活動、行事等）を予定通り行うことができた。生徒、教職員が一体となって活動を推進することができた。そうした活動への保護者の皆様、地域の皆様の協力があればこそその成果であると思います。

学校評価アンケートでも上記の達成度から考えるとおおむね良好であったと判断しているが、100%ではない。これまで生徒や保護者の方々から、学習面や生活面共に貴重なご意見をいただきました。学習面や生活面で多様な生徒が存在するため、どこに基準を合わせるかというバランスのとり方が難しい公立中学校の教育活動にとって苦慮する場面もありました。こうした意見を生徒や保護者と共に調整しながら、「全員の生徒が安心して学習や生活に取り組める学校」を目指し、今後も学習や生活の基準を定め、より良い学校へと発展させてまいります。

また、生徒たちは、常に自分や仲間とともに考え判断し、行動できる力を身に付けながら当たり前のことが当たり前に行えることや周囲の仲間、支援してくれる方々への感謝の気持ちが育っています。これからもすべての教育活動に生徒たちが真剣にかつ楽しく取り組めるように教職員全員で改善を図り、自校の教育力を高め、生徒たちの豊かな成長と明るい未来につなげていく所存です。